

自転車を取り巻く利用環境観察

連載 ⑦

「右側通行による危険性」

自転車安全利用研究会 谷田貝一男

警視庁は自転車の右側通行という違反が事故発生の高危険性が高いため、取り締まりを強化しています。その危険な状況を具体的に紹介します。

自転車と右折時出会い頭事故の危険



写真1 自転車との出会い頭事故の危険

自転車に気付いていません。右側通行の自転車が1秒早く右折したとすると、直進する自転車との正面衝突事故が発生したでしょうが、その認識が全くないような状況です。

写真1は右側

通行で右折する自転車に前方から自転車が接近しているときです。右折する自転車は接近する

自動車とすれ違い時接触事故の危険



写真2 自動車との接触事故の危険

写真2は交差

点を右側通行で直進する自転車が左折する自動車とすれ違ってるときです。自動車が警報機



写真3 歩行者との追突事故の危険

自動車との接触事故の加害者でもあり被害者でもある状況です。

歩行者を追い越し時追突事故の危険

写真3は右側通行の自転車が話をしながら右側を歩いている子どもたちの右横を通って追い越すときです。自転車は音がしないので、子どもたちは後方から接近する自転車に気付いていません。追い越す直前に子どもが横に動いたとすると、接触事故が発生した状況です。

駐車車両を追い越し時衝突事故の危険



写真4 各種車両との衝突事故の危険

写真4は右側

通行の自転車が駐車車両を追い越すときです。日常生活して通行が少ない道路

だから追い越し時にも対向からの通行車両がないという思い込みで、正面衝突事故が発生する可能性があるという認識が全くないような状況です。

事故はほんの一瞬・わずか1秒の出来事です。右側通行は自分が大丈夫と思っけていても、事故を起こす危険性が高いことを、ぜひ再確認してください。